

# 管理者のミスを「ミス」として、 全社員に明らかにせよ！

職場で額に汗して奮闘している組合員のみなさん！職場のみなさん！御苦労様です！！

みなさんも御承知のように、始業・終了点呼で管理者が「6月2日の仕業検査時において断路器の誤扱いが発生しました。今後このようなミスがないように」と、現場社員に注意を促しています。そして現在、班長室（ゴンドラ）には監視カメラが設置され、管理者による監視体制の下で作業が行われています。さらに、名古屋車両所の庁舎2階の階段正面に、名古屋車両所長名で『**非常事態宣言**』と題し、「基本的なルール、手順を無視した作業を行った結果によるヒューマンエラーが連続して発生している」「やるべきこと」・ルール、手順の厳守・指差確認喚呼の実施・責任を持った作業の実施という掲示物が掲出されています。しかし、「6月2日の断路器の誤扱い」について点呼等で周知されているものの、ヒューマンエラーが「連続」して発生したことは、私たち現場の社員へは何ら知らされていません。

組合員が、管理者に「連続して発生したヒューマンエラーとは、どんなものなのか」と質問したところ、一部の管理者から「C編成の16号車ICカードの抜き取り忘れである」と答え、他の管理者は聞いても「知らない」しか、答えてくれません。仮に「ICカードの抜き取り忘れ」であったとしても、3ヶ月も前の3月29日に発生した事象であり、これを「連続」して発生したヒューマンエラーというのでしょうか。

## 分会は地本を通じて、会社に申し入れを行った！

過日、一部の社員の中から「6月上旬に列車助役による信号テコ扱いミスが発生した」ことが明らかとなりました。会社は、普段から管理者のミスを現場社員に知られないように黙りを決め込み、現場の社員に「管理者のミス」については明らかにしません。

この蒸し暑い梅雨どきに日夜に渡り現場で額に汗して奮闘している社員に対して、管理者による作業の監視体制の下、見せしめ的に「注意喚起！」を現場詰所に掲出する会社の姿勢は「命令と服従」「規律と忠誠心」のなにもありません。

現場社員からは、「このような会社の姿勢では、現場社員が努力したところでヒューマンエラーは減少しない」、「管理者のミスを明らかにすると、現場社員に示しが付かないのか」、「管理者の今までのミス全部、点呼時に明らかにしろ」等々、怒りの声が沸き上がっています。

分会は、新幹線関西地方本部を通じて会社に申し入れを行いました。

**皆さんも、おかしいことはおかしいと声を出し、明るい職場を共に作って行きましょう！！**

